

サイン

サイン

vol.5
2023



特集

考える。 これからの多様な学びの場

コラム
Column

人生の「選択」

石本沙織 (いしもと・さおり)

1980年生まれ 富山市出身(現在神奈川県逗子市に在住)
富山市立西田地方小学校 富山市立南部中学校
富山県立富山高等学校 早稲田大学卒業
2003年フジテレビ入社 2023年3月に退社



「人生は選択の連続である」とシェイクスピアが言うように、小さなものから大きなものまで、毎日「選択」だらけです。今日は何を着ていこうか、お昼は何食べよう？あー夕食も考えないとなあ、誰か決めてくれないかなーと。私は小さい頃から優柔不断で、家族でレストランに行っても表のショーケースで「あれもいいけど、これもいいな」と悩んでいる子どもでした。イギリスのケンブリッジ大学の研究によると、人は一日に最大3万5000回もの決断をしているそう。……はあ。皆さん、本当に毎日、洗濯も選択もお疲れ様です。

そして、そんな小さな選択の日々にある日突然やってくるのが、人生を左右するような大きな選択です。進学、就職、結婚、引っ越し、時には離婚や退職、転職など。毎日の小さな選択とは比べ物にならないほどのエネルギーを使います。でもだからこそ客観的な状況把握と、自分自身をじっくり内観するというのが本当に大事だと思います。私が最近した一番大きな選択はやはり、フジテレビを退職するという選択でした。これも自分や家族の状況が忙しかったこと、自分自身の中の「そろそろ人生の次のステップに進みたい！」という内なる思いを総合的に判断して決断しました。

しかし、実はその3年前にも私は大きな選択をしていました。それは神奈川県逗子市への移住です。きっかけは今からおよそ15年前、同じ歳で逗子市出身のアーティスト「キマグレン」をインタビューした場所が、まさに逗子海岸でした。湘南といえば、もう少し西の方にある賑やかな江の島海岸しか行ったことなかった私は、その落ち着いた逗子や葉山の雰囲気、「東京から1時間くらいの距離にこんな所が！いつかここで暮らしたいな〜」と漠然と憧れを抱いたのです。そして忙しい日々に戻り、結婚・出産を経て、気が付けば上の娘も5歳。東京での子育てにも少し窮屈さを感じていた私は、決断するなら娘が小学校に上がる前だ！と夫に相談。夫の友人2人が逗子に移住していたことも後押しして、それー！と引っ越しを決めたのです。そしてそのわずか3か月後にコロナが流行し、夫はテレワーク、子どもたちも休校やオンライン授業に。これがもし東京の狭いマンションだったと考えると、いいタイミングで引っ越したなと思います。

今のところ娘たちも、海の近くでのびのびと楽しそうに暮らしています。逗子移住が娘たちの将来にとってもよい選択だったと願いたいところですが、こればかりはやってみないと分かりません。東京は確かに教育環境がよいと言われますが、あらゆる情報で溢れていて少し疲弊する面もあります。なので、まずは家や地域や学校で学んで、本人がもっと学びたかったら東京でも世界でも自分で飛び出していってもらえればと願っています。

自分にとってのよい選択は、きっと子どもにとっても良い選択のはず！「お母さんの笑顔が、家庭の幸せ」という言葉を信じ、今日の昼食も昨日と同じそうめんを選択する、にんまり笑顔のママでした。



逗子の浜辺にて

学校再編新聞

市内複数校区で学校再編の対話



浜黒崎地区センターに集まる出席者
＝富山市教育委員会提供



協議会の様子はこちら

学校再編の対象となっている富山市浜黒崎小学校区では、本年七月、地域住民や保護者で構成される「浜黒崎小学校のあり方協議会」を立ち上げ、学校統合の議論を開始した。同協議会の会長に就いた浜黒崎校下自治振興会長はあいさつで、「統合ありきではなく、子どもたちの教育環境について丁寧に議論したい」と述べ、時間をかけて意見集約して

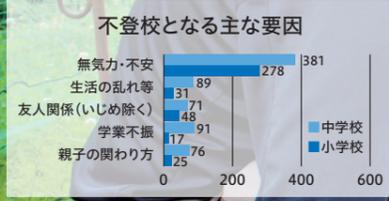
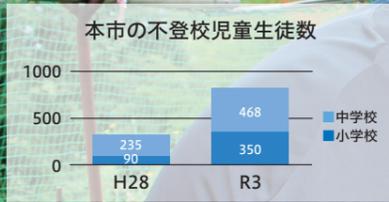
いくことを強調した。市教育委員会担当者によると、現在浜黒崎小学校区のほかに、八尾地域の榎尾小学校区で統合に向けた具体的な準備について話し合う協議会が設立されており、「その他の地域でも、自治振興会や保護者と少しずつ意見交換しており、今後、同様の協議会が立ち上がる地域も出てくるのではないか」との期待を示した。

地域住民「丁寧」に議論し、
統合の方向性を



YouTubeはじめました!





—安心して学べる場所—
 新型コロナウイルス感染症の拡大以降、不登校や不登校傾向を示す子どもが急増しています。
 主な要因には「無気力・不安」「生活リズムの乱れ」「友人関係(いじめを除く)」などがあげられ、一つだけの要因にとどまらないことが多いと言われています。
 将来、高校等への進学や就職ができない・途中でやめてしまう・家から出ることができないケースもあり、不登校特例校の設置検討や、相談体制・適応指導教室の充実など、子どもたちへのサポート体制を充実させ、早い段階から総合的に支援することを進めていきます。



富山子どもの村での自然体験(不登校支援事業)

子どもたちが
 自己肯定感を
 高める場所へ

それはVUCA時代を
 生きぬくための
 「非認知能力」を
 育む環境づくり

—富山市が学校再編を進める理由—
 VUCA時代を子どもたちが力強く生きぬいていくために、知識や技能だけではなく、主体性や協調性、批判的思考力(クリティカルシンキング)などの「非認知能力」を育成することが求められています。
 子どもたち一人一人が、予測できない変化に対し、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通じて、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の作り手となっていくようにすることが大切です。
 そのため、富山市では、多様な考え方に触れられるよう、「一定数の児童で授業できる環境」を整えながら、「教員の意識改革や授業改善」も進めていきます。
 また、社会にでたとき、「自分で課題を見つけて、主体的に判断・行動し、解決すること」に戸惑わないよう、問題解決型学習(PBL)に取組める環境づくりも進めていきます。

VUCA(ブーカ)とは…
 「Volatility(変動性)」、
 「Uncertainty(不確実性)」、
 「Complexity(複雑性)」、
 「Ambiguity(曖昧性)」
 それぞれの頭文字からとったもの。

学校選択制

自ら学びたい
 学校を選び、
 自主性を育む



小規模特認校

自然や地域の
 特色を生かし、
 自立と共生を
 目指す



朝日小学校
 R5年4月時点
 利用者23人



小見小学校
 R5年4月時点
 利用者3人



(担当) 学校教育課
 Tel. 076-443-2134

—小規模特認校での学び—
 「小規模特認校」はなにか特別な小学校という意味ではありません。
 児童数が少なく、小さな小学校ですが自然の豊かさ、地域の特色(例えば、スイカの収穫体験やジャンプ台を使ったスキー練習)を活かし、学校と地域が一体となって子どもたちの自己肯定感を高め、自立と共生を目指す活動を行っています。
 また、保護者の責任の下、市内各地から通学ができることになっています。
 今後、学校再編と併せて、将来的な小規模特認校のあり方についても検討を進めていきます。



—学校選択制とは—

公立の小・中学校は、一般的に住所によって就学する学校が指定されています(就学学校の指定)。
 このため、子どもたちや家庭の事情を考慮し、指定された学校以外への就学を保障する制度が用意されています。
 加えて富山市では、子どもたちが自由に学校を選択できるよう、中学校における「学校選択制(自由選択制)」を導入しています。
 学校選択制には、「自由選択制」のほか、「隣接区域選択制」や小規模特認校で用いられる「特認校制」があります。
 これら学校選択制のねらいには、学習環境や部活動、地域との協働といった特色から、進学したい学校を子どもたち自ら選ぶことで自主性を育むことがあげられます。
 このように、自分に合った学びの場で、充実した学校生活を送れるよう、富山市ではさらに調査・研究を進めていきます。

市ホームページ

 (担当) 学校教育課
 Tel. 076-443-2134